

American Radium Society 学会報告

早 渕 尚 文

昨年の4月30日から5月6日まで、ちょうどゴールデンウィークの期間に American Radium Society の第92回学術大会での発表のため、メキシコのカンクンに行ってきました。演題は「Organ preserving concurrent intra-arterial chemoradiation therapy for advanced laryngeal carcinoma」で、田中講師や鈴木講師が中心となって行っている進行喉頭癌に対する動注併用放射線治療による喉頭温存療法に関するもので、教室を代表して発表してきました。

American Radium Society は、がんの多角的治療で世界でもっとも長い歴史を誇る学会だそうです。今年のこの学会への日本からの参加者は東北大学の山田教授ご夫妻、京都大学の平岡教授ご夫妻と私だけでした。カンクンはメキシコ東南部のカリブ海に面したすばらしいリゾート地ですが、日本とはちょうど地球の裏側にあって遠い上に、アメリカで一度飛行機を乗りかえないと行けない不便なところ。私と山田先生ご夫妻はそれでもなんとか予定通りに着いたのですが、京都大学の平岡教授ご夫妻は日本からの飛行機が遅れたために、乗り継ぎ予定便に乗れなくて、アメリカで一泊しななければならなくなりました。カンクン到着は翌日でした（やはり大変遠いところ）。

学会参加者のほとんどは学会発表が終わると、リゾートを存分に楽しんでおられるようでした（写真1は私の



発表を山田、平岡両教授が見にこられたところ)。



ホテルからも素晴らしい景観が楽しめます(写真2)が、わたしは両教授ご夫妻と共にチェチェンなどの先住民の遺跡の見学(写真3はチェチェンの遺跡での一コマ、切れ込み写真はそのあたり

に多いイグアナ)やシカレ海浜公園(写真4)などでのツアー観光、そして夜のカリブ海海賊ツアー(写真5、切れ込み写真はもう一隻の海賊船)などを楽しんできました。





最近では海外の学会に参加しても、大学の仕事が詰まっていた、なかなかゆっくりすることができない場合が多いのですが、今回はちょうどゴールデンウィークの期間でもあり、比較

的ゆっくり中南米の観光を楽しむことができました。

なお、一言追加しますと、あの学会後に東北大学の山田教授は私の土左衛門なる写真として写真5を講演で使われておられる（らしい）のですが、決して事実ではありません。あの写真はシカレ海浜公園で純粹にジュゴンをはじめ様々な珍しい魚が泳いでいるカリブの美しい海に浮かんで楽しんでいるところです。確かにシュノーケルの使い方がよく分からず、アップアップして、後で山田教授に助けてもらったのは事実ですが。

